

岩崎 純一 著

『岩崎純一全集』 第七十八卷「芸術、文化、言語、文学（一の八）」

現代芸術（グラフィックデザイン、インスタレーション、パフォーマンス、パフォーマンスアート、環境芸術）

編纂、監修 岩崎純一学術研究所『岩崎純一全集』編纂局

巻頭言

本巻は、『岩崎純一全集』の第七十八巻を成し、岩崎の言語の著作のうち、現代芸術（グラフィックデザイン、インスタレーション、パフォーマンスアート、環境芸術）に関する述作を収める。

目次

巻頭言

第一編 〇歳～十九歳

第二編 二十歳～二十九歳

岩崎純一のウェブサイトご訪問者居住仮想御殿「武蔵幻想邸」

仮想御殿「武蔵幻想邸」の詳細図

第三編 三十歳～三十九歳

「仮想」御殿の名前と入居者募集中、自閉症観

『絵画を理解するための三つの契機』

第四編 四十歳～四十九歳

第五編 五十歳～五十九歳

第六編 六十歳～六十九歳

第七編 七十歳以降

第八編 著作者の一部および著作者が岩崎純一であるもの

第九編 著作者が岩崎純一であるもの

第二編 二十歳〜二十九歳

岩崎純一のウェブサイトご訪問者居住仮想御殿「武蔵幻想邸」

二〇一一年八月十四日 起筆

二〇一二年九月六日 公開

二〇一七年十月九日 最終更新

◆「武蔵幻想邸」の解説

◆建築データ・設置機関・居住者一覧・歴史 (PDF版、183KB)

◆中央の大広間の立体図 (Sketchfab) での3D手動映像。SketchUpで制作。)

◆詳細全体図 (PDF版、2.5MB)

◆詳細全体図 (ウェブページ版。重たいです。ブラウザによっては区画の境界に白線が入ることや一部の画像が不鮮明になることがあります。異常ではありません。)

◆区画ごとの詳細図 (数字は北西端を原点としたときのメートル数)

(50,50)	(100,50)	(143,50)
(50,100)	(100,100)	(143,100)
(50,150)	(100,150)	(143,150)
(50,171)	(100,171)	(143,171)

◆「武蔵幻想邸」の解説

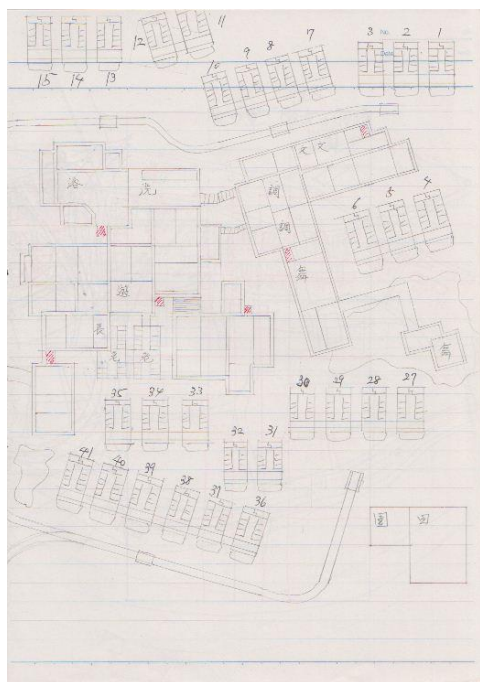
●日本の建築物の構造や間取り図 (特に城郭や寝殿造) に興味のあ  
る自閉症男児たちが描いてくれた原図を基に、私が描いた架空の御  
殿です。

以下は私の原案ノートです。

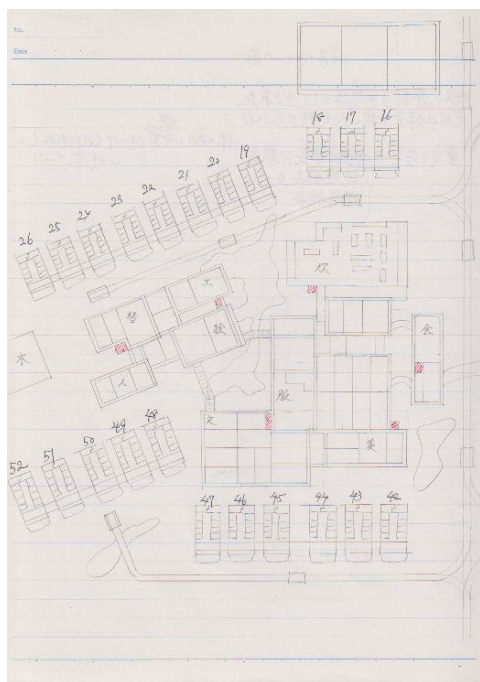
原案ノート一 (反時計回りに九十度回転させ、東の対とした。)



建設中  
建設中  
建設中  
建設中



原案ノート二（時計回りに九十度回転させ、西の対とした。）



- 原図を尊重していますが、建築として無理があるところには私を手を加えました。能舞台や茶室、前庭の設計は、私が行いました。平安貴族の寝殿造邸宅と江戸の長屋の合作のような作品です。
  - 原図には、なぜか殿方用温泉が狭かったり、そこからの逃げ道があったりなど、面白い特徴が多くあり、完成図でも残っています。
  - 私も個室を一つ「借りて」「住んで」います。また、このサイトに掲載している私の和歌集や岩崎式日本語の編纂室として、別の部屋も借りています。
  - もちろん、家賃は「タダ」なので、「私は岩崎純一のウェブサイトの常連訪問者です」という方で「住みたい」方は、どうぞその旨を（適当な日本名・雅名と共に）お申し出下されば、掲載いたします。
  - ★ 定員七十名、居住個室部分のみ二階建て、個室番号「いノ一ノ一」〜「ほノ二ノ七」、一階は殿（男性）、二階は姫（女性）、という設定。
- 例えば、現在、私に参加している伝統和歌の会「余情会」のメンバーが（現実に）全国に散らばってしまい、実際に集まって和歌を詠み合うことが難しくなり、少なくとも雰囲気だけはずっと保ち続けることができればとの思いで、「この仮想御殿で歌会をやっている」という設定にしているため、余情会メンバーも居住しています。「仮想 曲水の宴」などを催しています。
- ※ 制作には下記のフリーソフトを使用しています。

Excel DE 間取り図

### 仮想御殿「武蔵幻想邸」の詳細図

二〇一一年八月十四日 起筆

二〇一二年九月六日 公開

二〇一七年三月十三日 最終更新

岩崎純一のウェブサイトご訪問者居住仮想御殿「武蔵幻想邸」

「武蔵幻想邸」のページトップ

画面幅の大きいパソコンのディスプレイでご覧になると、大きく見えます。スマートフォンなどの場合、拡大表示して下さい。

### 第三編 三十歳〜三十九歳

「仮想」御殿の名前と入居者募集中、自閉症観

二〇一二年五月十九日 起筆、攔筆、公開

（二〇一八年七月十五日追記…現在、岩崎の旧サイトの内容は『全集』に収録。）

■サイトご訪問者に自閉症の男の子とお母様がいらっしゃいますが、その子が日本の建築物の構造や間取り図（特に城郭や寝殿造）に非

常に興味があり、兄弟と一緒に仮想御殿を描いてプレゼントしてくれました。

それを、多少（建築として）無理があるところに私が手を加えつつ、パソコンで描きました。自閉症者のすばらしい能力の一例として、載せています。

ただし、能舞台や茶室、前庭などは、後でその子から追加の要望があつたもので、おまけにその子が自分で描くのが億劫そうだったので、私が最初からパソコンで設計し、描きました。

★岩崎純一のウェブサイトご訪問者居住「仮想」御殿

<http://iwasakijunichi.net/goten/>

平安貴族の寝殿造邸宅と江戸の長屋の合作のような典雅で壮麗な作品で、私も一つ部屋を「借り」て「住む」ことにしました。しかし、私が「当主」という設定らしく、とりあえず、当主を引き受けました。なぜか殿方用温泉が狭かったり、そこからの逃げ道があつたりするのが、楽しい特徴です。

あとでトップページからもリンクしておきます。

すでに何人か「入居」していますが、その他に「私は岩崎純一のウェブサイト常連訪問者です」という方で、「住みたい」方は、その旨を（適当な日本名・雅名と共に）お申し出下さい。

（定員七十名。居住個室部分のみ二階建て。個室番号「いノ一ノ一」

「ほの二ノ七」。一階は殿、二階は姫。という設定。）

御殿の名前も募集しています。（六月八日追記・・・「武蔵幻想邸」に決定。）

ちょうど今、私が参加している伝統和歌の会「余情会」のメンバーが（現実には）全国に散らばってしまい、実際に集まって和歌を詠み合うことが難しくなり、少なくとも秀困気だけはずっと保ち続けることができればとの思いで、「この仮想御殿で歌会をやっている」という設定にしました。（こちらの仮想御殿のほうが圧倒的に華やかですが・・・）

そういうわけで、余情会メンバーもすでに何人か「入居」しています。「仮想 曲水の宴」などを催す予定です。

■ そうですね、五月十四日のテレビ朝日の「Qさま<sup>2</sup>」で、自閉症の表現に問題があったとして、局が謝罪文を公表する事態になったようです。

私は、この番組は時間があれば見る程度で、この時は見ておらず、どういうニュアンスで登場したのかは分かりませんでした。

局や世論や自閉症擁護団体などによると、どうやら、「この10年で患者数が増えている病気を選びなさい」という問題を出し、その正答の一つとして「自閉症」を答えさせたということのようです。

これについて、「自閉症は先天的な脳の機能障害であるのに、患者や病气といった言葉や誤解を与えるイラストを使ったことが不適切

だった」という見解が主流のようです。

私人人としては、相変わらず、「自閉症者が増えた」という言説自体に疑念を持っている立場です。

自閉症は「先天的な脳の機能障害」ではなく「先天的な脳の機能」であって、現代先進国民の幼少期・若年期以降の高度自我は、後天的に獲得した情報によって形成・規定された「自閉症状の自殺（いわば“アポトーシス”）状態」であるというのが、私の考えだということですが。

このような考え方で生きていくと、次のような発想に頭が進んでゆくの、自分としては有意義に感じるので。

例えば、「自閉症者は、言語障害はあるが、優れた五感や共感的な感性を持っているに違いない」とか、「共感者と自閉症者の感覚世界は、壁で隔てられたものではなくて、初めから似た者同士で、連続的なものであるだろう」とか、「自閉症者が障害者に見える（障害者と認識される）のは、我々が二〇一二年現在に生きる現代人だから、ということだけを理由としている。（前近代人や動物の脳には、定型発達者と自閉症者の区別が認識されていない可能性がある。）」とか、「今後の高度情報化・国際化社会を我々人間・日本人が円滑に生きてゆくには、少なくとも五感・知覚様態を非自閉症的なまでに鈍化させなければならぬかもしれない」といった発想です。

むしろ私は、自閉症者に「人間の原点」を見い出せないかと思っています。「なぜ我々人間は、自閉症的・アスペルガー的ではない動物になったのか」ということのほうが、我々人間にとって面白く、

かつ重要な宿題であると考えています。

実は私も、共感覚者・共感覚研究者としてテレビ局から取材を受けるたびに、自閉症などのデリケートな話題についても尋ねてみており、「自閉症者と共感覚者のつながりを含めた、もっと広くて深い人間観を日本のテレビで言ってみたいのですが」と本気半分、冗談半分で言ったら、「岩崎さんのお気持ちは分かりますが、テレビ的にはちょっと・・・」と言われてお互いに苦笑しつつ、結局私が他の出演者を紹介、などということもありました。

内心はこういう考え方を本気で広めたいと思っていますが、それにしても、テレビ番組が「自閉症は最近になって増えた病気です」と、嘘か本当か分からないことを言ってしまうくらいだから、私の自閉症観などは、なおさら堂々と言っても構わない正しいものに見えるのですが・・・など、愚痴を言ってみたくらで、この記事を終わります。

### 『絵画を理解するための三つの契機』

二〇一四年三月二十三日 起筆、攔筆、公開

サイトのコラボレーション芸術のページに新作品を掲載しました。アーティスト、岡崎莉望様とのコラボレーションです。岡崎莉望様をご提供下さったこの絵画を、私が解釈する形で作曲しました。

◆『絵画を理解するための三つの契機』 二〇一四  
画・岡崎莉望 曲・岩崎純一

#### 【テーマ概要】

自己以前（胎内）、自己（現実世界）、自己以後（彼岸）の三つの部分から成る。彼岸に向かって、回転しながら落ちてゆき、還ってゆくための青い螺旋階段。

生きるとは、どういうことなのか。テンポの遅い彼岸と、テンポの速い現実世界とは、順序が逆転している。自己が自己として苦しむ現実世界が最後を飾る。

MP3で聴く

